

## 第 5 1 1 回遊佐町議会定例会一般質問通告書

平成 2 8 年 3 月定例会

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
1	7 番 阿部 満吉 (一問一答)	1. 加工所について	<p>①現在の進行状況と加工所の考え方 ②個人の加工所設置支援は ③P A タウン発信特産物の開発にむけて</p>
2	1 番 齋藤 武 (一問一答)	1. 町立小学校の統廃合(適正整備)について	<p>昨年 1 2 月、蕨岡小学校と遊佐小学校の統廃合が急遽、教育委員会から示された。当初案は事実上、平成 2 9 年 3 月末での蕨岡小学校の廃校を求めるものであり、蕨岡地区では P T A や地域住民に強いとまどいが広がったと認識している。</p> <p>小学校の統廃合は避けて通れない課題であると同時に、その実施にあたっては目先のことのみならず、地域の実情や人々の気持ち、地域づくりなど、多角的に注意を払い、慎重にも慎重を期して進めるべきと考える。</p> <p>今回の件はこれらの観点から、その進め方には大きな問題があったと言わざるを得ない。一連の事柄をきちんと検証し、これからの「適正整備」につなげていくべきではないか。</p>
3	3 番 菅原 和幸 (一問一答)	1. 住みたい町から「より住みやすい町」づくりへ	<p>ある雑誌の企画において「住みたい田舎」ランキングが発表され、遊佐町が全国でも高い評価を受けました。本町の高齢化率が 3 6 % のなか、「C C R C / 高齢者地域共同体」の山形県版の支援策が新年度に事業化される。</p> <p>住みたい町から「より住みやすい町」づくりへの更なる施策は。</p>
		2. 災害や産業への活かした情報の活用について	<p>「現状を的確に把握」し「将来につなげる」施策を「スピード感」をもって展開することが大切であるとする。社会福祉に関するデータは、災害対策基本条例に関する避難行動支援などへの活用が想定される。また、法人化が進む農業分野での農地情報への活用も考えられる。情報は活用されてその価値が生まれると考えますが、所見を伺う。</p>

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
4	11番 斎藤 弥志夫  (一問一答)	1. 無料映画館の開設	<p>映画好きにとっては映画は青春であり人生であったりするのだが、かつての名作を見れば時代の雰囲気を確認できるのは確実である。もう一つは笑いである。その効果については科学的根拠があって免疫細胞の増産効果で健康増進が促される。外国映画を見る効用としては、ひとつは外国についての知識を得ることができる。認知症は刺激がなくなるとだんだん機能が低下することによって起こるが、映画を見ることによってそういった状況を打開することができるようになる。映画は家のテレビではなく映画館で見る事で大きな効果を得ることができる。映画館の大きなスクリーンと大迫力の音で見る事が非常に大きな刺激となって認知症がかなり改善するそうだ。映画の効用を踏まえた上で町民サービスの一環として無料映画館の開設を提案するものである。</p>
		2. 遊佐町パーキングエリアタウン事業	<p>遊佐町パーキングエリアタウン事業について以下の基本的事項を伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICの場所</li> <li>・用地買収について地権者の理解</li> <li>・3ヶ年の予算8億4,220万円の出所</li> <li>・岩ガキの生産高の推移と安定生産に向けた対策</li> </ul>
5	5番 土門 勝子  (一問一答)	1. 中心街に賑わいを	<p>町の人口減少とともに商業を取り巻く環境は厳しい。特に遊佐駅周辺は空洞化し、先人達が築き上げた町の賑わい、古き良き時代は時とともに活気を失って来た。今こそ歯止めをかけるチャンスと思われる。将来、後世に残すために投資は必要不可欠と思われるが次の3点について町の考えを伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 町営若者定住住宅の進捗状況は</li> <li>2. 町の交流人口拡大に食文化の拠点を</li> <li>3. ワーク・イン・レジデンス制度について</li> </ol>

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
6	2 番 松永 裕美  (一問一答)	1. 子供教育における取り組みの提案	(1) 一人親世帯土曜無料塾 (寺子屋方式) 開設に向けて。  (2) 小学校での町の特徴を生かした冬期体験活動の提案。
		2. 効果的な町の情報発信新企画の提案	町のPRと持続的CM大賞入賞に向けての取り組みと提案。
7	8 番 佐藤 智則  (一問一答)	1. 鳥獣による農作物被害対策について	野生鳥獣による農作物被害額は、近年、200億円前後で推移している。特にシカ、イノシシの被害の増加が際立っており、耕作放棄地の増加による鳥獣の生息域の拡大や猟友会会員の高齢化、会員の減少等により狩猟者の減少が顕著である。山形県内においても、市町村鳥獣被害防止計画書作成している自治体が23市町村あり、庄内地域においては鶴岡市1市だけである。 1月14日の山形新聞に鳥海山南麓でのイノシシ棲息の記事掲載があった。やはり鳥獣の生息域拡大している現実であると思える。 鶴岡市でも鳥獣被害防止の取り組みの推進していくためには猟友会新規会員の獲得と狩猟資格の取得・維持経費等の負担軽減が大きな課題としている。遊佐町はどうあるべきか、その対策を問う。
8	6 番 赤塚 英一  (一問一答)	1. 特別職の待遇について	山形県人事委員会から、昨年度に続き今年度も給料引き上げの勧告がされた。それに伴い、遊佐町でも引き上げされるが、特別職の報酬についても、検討されるべきと思う。 特別職についての今後の考えを問う。

通告順	通告者	質問事項	要 旨
9	4番 筒井 義昭  (一問一答)	1. 木育の推進を	木育とは木材利用に関する教育活動を意味するが、幼少期から木製品に触れる機会を多くつくり「産まれた時から老齢に至るまで木材に対する親しみをもつこと」「木材の良さや特徴を学び、その良さを活かした創造活動を行うこと」「木材の環境特性を理解し、木材を日常生活に取り入れること」により、豊かな環境型社会を目指す取り組みである、町の木育推進への取り組み状況と今後のお考えは。
10	9番 高橋 冠治  (一問一答)	1. 創業支援センターの今後の体制作りは	特産品の開発支援・販路拡大等の事業を行っているが、職員雇用期間3年という、限られた時間で本当に結果が出せているのか。 抜本的な体制づくりが必要ではないか。
		2. 若者定住施策の目玉事業（若者向け町営住宅）の進捗状況は	当初予定では、本年度28年9月頃をめどに入居を計画であった。 若者たちの期待も日々高まっているが、なかなか工事が進まない状況である。その理由は。